

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191401181), 法人名 (有限会社 時館), 事業所名 (グループホーム来夢(ユニット 海)), 所在地 (北海道函館市若松町22番1号 コレクティブハウス来夢), 自己評価作成日 (令和5年2月1日), 評価結果市町村受理日 (令和5年7月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

函館駅前にある市街型のグループホームで、街の散歩やお買い物等、楽しく過ごせる環境の中、のびのびと生活することができ、季節の行事やレクリエーションなどで利用者様に毎日を楽しんで頂けるよう、様々な企画に取り組んでいます。行事や誕生会の際には皆様に喜んで頂けるような、目でも楽しめる料理を提供しています。
利用者様の生活の場として、個々の思いを尊重し、その人らしい生活をのんびりと過ごせるよう、寄り添ったケアを心がけ、利用者様の健康管理を、看護師・担当医と連携を図り、日々の利用者様の状態の把握、個々の健康状態に合わせたケアを行っております。
また、当ホームのビルには、当社が運営する就労支援事業所もあり、それぞれお互いの利用者の交流が見られ、国が力を入れている地域共存社会の実現に向けて歩んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191401181-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年3月3日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR函館駅から徒歩3分程の大沼道沿いに位置し、交通、買い物に大変至便な環境下に立地している。母体法人は、主に道内において障がい・高齢分野の福祉サービス事業所を多数運営しており、個人を尊重し、尊厳ある本人本位の生活の提供に努めている。管理者は、企業理念のもと、原則に徹した介護方針と実践に努めており、運営推進会議や地域行事を通して認知症への理解を周囲に勧め、職員に対しては、サービス向上を目指すために資格取得を支援する等、介護職員の基盤整備に取り組んでいる。医療面についても、協力医療機関や事業所に配置の看護師によるオンコール体制により、終の棲家として暮らし続けられる環境にあり、事業所の共同生活の場としてのコロナ感染防止対策や、外出が難しい現状においての心身の機能維持に関する工夫、利用者本位に選択するケアを基本とした配慮ある支援が好評を得ている。また、身体拘束委員会を定例で開催し、虐待、拘束について職員間で検証、事例を挙げての社内研修に努めている。今春以降は、地域との協力関係の再構築等、様々な計画がある事から、その実践に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の企業理念を基に、ユニットの目標を見やすい場所へ掲げ、朝の申し送りや会議の時などに確認しあい、より良い介護ができるよう心掛けている。	法人の企業理念、ユニットごとの目標を各所に掲げ、日常的に共有している。また、理念・目標の達成度、支援の方向性について定期的に申し送りや会議の場で検証、協議しながら、チームワーク介護の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナ感染防止の為、地域との交流はできる状況ではないが、それまでは地域のお祭りへの参加や小学校の運動会・各種発表会への参加、また、近所の散歩やスーパー、コンビニ、ドラッグストア等での買い物の機会を作っていた。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、事業所の近況の周知等、関係維持の方法について職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域に対し活動内容などを説明していた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は感染防止の為に休止しているが、運営推進会議では、利用者様の生活状況などをお伝えしている。また、地域の方やご家族様、利用者様にも参加して頂き、意見をサービスに繋げるようにしている。	現在は書面での開催としているが、通例では家族、町内会代表、行政に参加、協力を得て定例で開催している。会議内容は書面報告した上で委員からの意見を聴取し、利用者家族、職員に周知することでサービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者や後見人との連携を密にとり、情報交流や協力関係を構築できるよう取り組んでいる。	行政窓口からは、主に運営推進会議や電話で助言、指導を得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や事業所の運営状況等の情報交換を行い、開かれた事業所作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、身体拘束をしないケアについて情報交換・周知を行っている。また、定期的に社内研修も行っている。	身体拘束委員会を設置し、指針を定めて定例で開催しており、内容について全職員に周知している。虐待を含めた全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、社内研修の機会等で具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備しており、虐待が見過ごされることがないように日々、ミーティングや申し送り等で話し合いの機会を設け、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は制度について学んでおり、マニュアルも整備している。 また、後見人がいる利用者もあり、必要性は概ね理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、しっかりと時間をとり、不安や疑問点等、十分に聞いた上で説明している。 また、改定時には個々に説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中から利用者様の声を聴いたり、ご家族様からは、面会時や介護計画の説明時等を利用し、意見や要望を伺うよう努めている。 また、意見箱を玄関に設置しており、体制作りをしている。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、職員間で検討して運営やケアプランに反映している。現在はお便りの他、電話、面会等、柔軟な情報交換の場を設定し、意見・要望を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、申し送り時にも意見や提案を聞く機会を設け、職員からの意見を汲み取れる環境を作っている。 また、個別にも面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット会議や朝礼の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、出された意見を検証して、介護姿勢や業務の改善に活かしている。また、定期的な個別面談の実施、資格取得への支援等、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護系資格取得の支援(貸付金制度)や、取得後の手当の支給、退職金制度の導入や燃料手当の支給等、処遇の改善を図っている。 また、自薦・他薦による役職の抜擢等、機会の提供をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。 また、研修で学んできたことを現場で実践できるよう、回覧や報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム協会に加入し、研修機会を通じて、他事業所の職員との交流をもてるようにしている。 また、同法人内のグループホームとの情報交流も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行った後、ご本人と面談し、不安や要望等を抽出し、職員間で対策案を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談後にも、困りごとや不安等があれば、都度訪問し、話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が、ご本人・ご家族と十分に話し合い、アセスメントを行って個々にあったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や簡単な作業を一緒に行ったり、生活の場面で、利用者様から教わったりと、相互協力の姿勢で支援にあたっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を伝えたり、ご家族様より情報を頂いたりしたことを、ご本人の支援に活かしている。 また、毎月、利用者様の様子をお伝えする手紙をお送りしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を、ご本人やご家族様に聞き取りしながら、出来る限り希望に添えるよう支援している。	コロナ禍により、現在は外出が困難となっているが、それまでの関係が継続できるよう、電話の取り次ぎやお便りの内容を充実させ、近況を伝える等、職員間で検討し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが、隣や向かいの席になるよう配慮しており、関りが多くある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に応えられる体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で、思いや意向を把握し、困難な時は、表情などから思いを汲み取り本人本位に検討している。	個々の意向や希望の聞き取り、汲み取りに注力し、本人本位の生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人やご家族様から生活歴や生活状況を聞き取り、入居後のサービスに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況を記録し、日々の申し送りやミーティングを通じて、現状を職員間で共有し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月毎にモニタリングを行い、ご本人・ご家族様の意向をお聞きし、必要関係者と話し合いの場を設け、現状に適した介護計画を作成するよう努めている。	職員相互でモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医からの意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。職員は介護記録について、その時の表情がわかるよう、具体的な記載に注力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は記録にし、気づきや工夫は会議等により職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な状況に対応できるよう、個別の対応や工夫をし、柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はイベント等が中止となるものが多く、それまでは町内会に加入し、交流を図ったり地域のイベントに参加し、楽しみが持てる暮らしを支援していた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は利用者やご家族様の希望を考慮し決定しているが、訪問診療や24時間対応可能な当ホームの協力医療機関に移行される場合が多く、移行されない場合でも、ご家族様と一緒に職員が同行し、医師へ状況を報告している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを支援するよう努めている。医療機関への受診結果や配置の看護師による健康管理の経過については、記録を基に職員間で共有し、家族にも詳細に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護職員が常に連携をとり、業務時間外でも24時間オンコールにて、いつでも相談できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員、関係機関と密に連携をとり、できるだけ早期に退院できるよう関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居時に、重度化した場合における指針を説明し、意向を伺っている。 また、主治医の指示の下、看護師を含め職員間で方向性について話し合う体制にある。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、事業所に配置の看護師を中心に職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・救急対応マニュアルの整備を行い、定期的に職員間での対応の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを活用し、避難訓練を年3回行っている。	津波・地震等の自然災害、火災を想定した非常災害訓練を定例で実施している。防災マニュアルを基に、指定避難場所や地域町内会との協力体制、役割も含めて確認しながら、不意の災害に備えている。	災害時の避難場所を家族、関係者へ定期的に周知することを計画している。進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊重した言葉遣いや接し方について、都度話し合いながらプライバシーを配慮した対応をしている。	職員は、利用者の人格・個性の尊厳を介護の基本とし、いかなる時もその尊厳を損なうことない介護に専念している。定期的に接遇やケア手法等の見直しの機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からも、思いを聞き出せるよう会話を工夫したり、ご本人の言動や行動から思いや希望をくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何がしたいか、どう過ごしたいか、など、会話しながらペースを乱すことなく自然に楽しみを見つけられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に入居者様と一緒に、着る服を選んだり、ご家族の意見を聞きながら、季節に合わせた服装を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に出来る範囲で盛り付けや後片付けなどを手伝っていただいている。季節食を提供したり、おやつ作りを楽しんだり、食事の楽しさを支援している。	献立は、季節感を大切にしたい利用者の希望を取り入れたものとなっている。感染防止に留意しながら、下準備から片付け等、好きなお手伝いをお願いしたり、おやつ作りを行う等、楽しみある時としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を日々記録し、状態の把握をしている。毎朝、牛乳を提供したり、ご本人の好みや体調に配慮した個別の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持ができない方には、必要な物品を用意し、口腔ケアを行っている。自立している方でも、見守りや観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人の仕草や行動に注意しながら出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	職員は個々の心身の状況や排泄パターンなどをチェック表を活用して共有し、個々のトイレでの自立支援に取り組んでいる。衛生用品のサイズ感等、定期的に身体に合ったものに見直す機会を設けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘薬に頼らず、自然に排便できるよう、食事の栄養バランスや、水分量に気を付けている。また、水分量の確保のため、諸侯品を把握し、提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を決めず、ご本人の希望に沿って、週2回以上の入浴ができるように支援している。入浴時は歌や話など、楽しい入浴に取り組んでいる。	毎日お湯はりを行い、時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助や担当職員、湯温等の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事前に生活の習慣を聞き、個人に合った就寝の支援をしている。入眠困難でも、できるだけ薬に頼らず、日中の活動量を増やすなど、工夫を行っている。また、食卓以外にもソファを用意し、休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり薬の管理を行っており、全職員が服薬内容を閲覧しやすいよう薬情報をファイルに綴っている。薬の変更などがあつた際には周知し、状態の変化を記録し確認している。個人に合わせた服薬の支援も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様やご家族から聞き取った生活歴や、趣味だったことなどを参考に、ご本人の様子や言動から好まれる活動を把握したり、役割が持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染防止のため、外出が思うようにできない状況であるが、普段から行きたい場所、馴染みの場所などを聞き取り、散歩や外出の支援を行っていた。	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、気軽に外出が出来るよう支援している。コロナ禍であるが、閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら外気浴、外出の機会を設けたり、体操やレク等で運動を積極的に取り入れることで、心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は外出が困難であるため、金銭管理がある程度可能な方にはチラシを見たり、要望を聞き、職員が買い物代行。レシートを見てもらい、お小遣いの中から支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるよう、希望があれば対応しており、必要時には会話のやりとりの仲介を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、利用者様と一緒に季節感のある飾りつけをしている。 共有空間は温度や湿度に配慮し、定期的に換気している。 対面式カウンターは、家庭的な雰囲気が有り、すぐ側には休息できる空間を用意している。	共有スペースは、温・湿度や換気、音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に保たれたリビングは行事写真や季節感ある装飾が施され、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所を大切にしている。感染防止対策として、面会制限がある現状においても、事業所としての取り組みを周知し、家族から理解を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで利用者様が思い思いに過ごせるよう、複数のテーブルを置いたり、食卓以外にもソファを設置し工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族、時には職員も間に入り、慣れ親しんだ家具やベッド、仏壇などを持ち込み、家族の写真、手作り品を飾って、居心地の良い空間作りを工夫している。	居室には利用者の導線に留意された配置となっており、長年愛用した家具も見受けられ、手作りの作品や家族写真が飾ることで自分だけの落ち着ける空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせて、安全を考えながら、家具の配置や洗面道具の使いやすさなどで、自立支援に努めている。		